



ルーペで コケを見てみよう

今回は足元の小さな小さな植物、コケを紹介します。早春は、多くのコケ植物にとって、胞子を散布する季節です。ぜひ、ルーペ(10~20倍がおすすめ)でコケ植物の世界を覗いてみてください。



ふるきたつを
古木達郎
千葉県立中央博物館
研究員

隙間を探す名人 戰わずして勝つ

散歩道や通勤・通学路など身近な場所でコケ植物を探してみましょう。きっと真っ先に思いつくのが人家の北側の暗くて湿った地面でしょう。このような場所や大きな木の下などは暗すぎるために、種子植物やシダ植物には適さないので、コケ植物にとつてはありがたい場所です。でも、暗く湿ったところばかりに暮らしているわけではありません。

ヨケの湿った姿と乾燥した姿



乾燥したエゾスナゴケ写真



湿ったエゾスナゴケ写真

コケ植物は、乾燥した時と湿った時とでは姿が違う。水分は体の表面から吸収され、体の表面から失われる。特にセン類は体の中の含水量の変化に耐えられ、乾燥に強い。霧吹きで水をかけて、変化を観察してみよう。

早春、平地では多くのコケ植物が、胞子を散布します。胞子は風に乗つて運ばれ、どこかに着地し発芽して、環境が適していれば群落をつくります。群落をつくるためには、種子植物やシダ植物との生存競争に勝たなくてはなりません。体が小さいコケ植物は、大きい相手との競争を避けれるかのように、生育環境の隙間を埋めるように暮らしています。

早春、平地では多くのコケ植物が、
胞子を散布します。胞子は風に乗つて運ばれ、どこかに着地し発芽して、
環境が適していれば群落をつくります。群落をつくるためには、種子植物やシダ植物との生存競争に勝たなくてはなりません。体が小さいコケ植物は、大きい相手との競争を避けられるかのように、生育環境の隙間を埋

物やシダ植物、蘚苔類という植物、菌類と藻類が共生した地衣類、藻類などさまざまな仲間の生物がいます。狭い意味のコケは、蘚苔類（以下、コケ植物）だけを指し、ここでは、このコケ植物をご紹介します。

ひなた 日向を好みだり、乾燥に強い種もあります。よく草刈りされた芝生や花壇でも見つけることができるでしょう。わずかな裸地を利用して草本に覆われる前に群落をつくっています。

「無性芽」でどんどん植える



ゼニゴケの無性芽 (杯の中のもの)



アカイチイゴケの無性芽 (葉の間の糸状のもの)

(林の中のもの) (葉の間の糸状のもの)
コケ植物は胞子をつくって殖えるが、無性芽と呼ばれる体の一部が散布体になった「むかご」のようなものをつくる種がたくさんある。無性芽は、成熟した植物体よりも若い植物体でよくつくられ、すぐ近くに落ちて、群落を広げることに役立っているようだ。

ルーペで「さく」を観察しよう

蘚苔類の蘚はセン類のこと、苔はタイ類のことです。このほかにツノゴケ類があり、胞子をつくる部分(さく)の特徴によって3つの仲間に分けられます。

- 特徴**
- ・帽がある
 - ・さく歯がある
(さく歯は4の倍数)



ハチヂレゴケの開いたさく歯(左)、閉じたさく歯(右)。セン類のさく歯は、晴れの日に開き、雨の日に閉じている。晴れの日に胞子を散布させる。



セン類は個性豊かな帽子をかぶっている。
左からミノゴケ、ホソバオキナゴケ、ホソバギボウシゴケ



- 【茎葉体】**
- ・花被がある
 - ・茎の両側と腹面に3列の葉
 - ・(茎と葉が分かれているもの)



チヂミカヤゴケ



ゼニゴケの雌器床



- 【ツノゴケ類】**
- ・角のようなさくがさける
 - ・藍藻が共生している



ナガサキツノゴケ

クイズ

コケ植物(蘚苔類)は どれでしょう?

全部、蘚苔類に似ていますが、
答えはひとつ!

答えは35ページ



タチクラマゴケ



ウメノキゴケ



オオカサゴケ

日本自然保護協会会員募集中!

お問い合わせはTEL: 03-3553-4101 Eメール: nature@nacsj.or.jp
このページは、筆者の方に教育用のコピー配布をご了解いただいております
(商用利用不可)。<http://www.nacsj.or.jp/katsudo/kansatsu/>からPDFファイルがダウンロードできます。自然観察会などでご活用ください。

EPSON
EXCEED YOUR VISION

本コーナーは、エプソン純正カートリッジ引取回収サービスを利用されたお客様のポイント寄付によるご支援をいただいております。